

一九六六年の幼児教育界を迎えて

山 村 き よ

◆お茶の水幼稚園創立九十周年を迎える年と想い比べて

十年前の秋、日本の幼稚園誕生八十周年を、公私立の別なく幼稚園関係者みんな喜び合い、あのお茶の水大学の講堂で賑やかな祝典を行なったあと、余興として大阪市立の先生方が歌ってくださいましたきれいな合唱が、今でも耳の奥にのこり、東京都公私立幼稚園の先生有志で演じてくださった劇「日本の幼稚園のうつり変り」の場面は、はつきりと今、目に浮ぶ。お茶の水幼稚園や私の園に保管されてあった写真から当時の先生や、園児の服装などを考えだしてつくり、大きな白いエフロンをかけて三、四才児になりました公・私立幼稚園の先生方が、昔の表情遊戯や恩物など教えられる風景に、私も一役買って明治時代を想わせる着物に丸まげ姿の母親に扮し、だだをこねるわんぱく小僧のために甘い母親ぶりを發揮することなどを若い先生方と一生懸命練習した日のことが昨日のように想い出される。今また、九十周年を迎える時に、この十年間のいろいろの

ことと、想い合わせて私の頭の中は走馬燈のように回り始めている

◆幼稚園教育振興ムードにつつまれて

ここ十年間の幼稚園数の増加はめざましい。幼稚園はぜいたくなものと思われ、又、保育園も幼稚園も一しょに考えられていた一般母親たちや行政官の方がたも共に特別視して、まますばいされてきたながい歴史をもつ幼稚園は、今日では「特権階級用幼稚園」の汚名を返上して、こどもが生まれるとすぐ『幼稚園入園』を考えるようになったことは親の責任感からか？……とに角、ここ二、三年はものすごい勢いで入園希望者が増し、一昨年からテレビやラジオのニュースには勿論、婦人雑誌、週刊誌までも幼稚園問題をとりあげようになろうとは、十年前には考えられなかったことだ。いいにつけ、わるいにつけ、とに角四十年以上も幼児教育に関係している者にとって、こんなにも「幼稚園教育振興ムードの盛り上がり」を見ることは今までにないことで、ほんとうに嬉しいことだ。

もとから幼児教育の重要性がわかっておられた行政官諸氏も、「ない袖はふれぬ」「義務教育でないから」とすげない扱い方をされ通してきた公立幼稚園は振興七か年計画のおかげで昨今、どんどん発展してきている。どの程度具体的な実施計画があるか、ないかはつきりしないまでも、各都道府県教委は本腰を入れて、実施計画促進のために多くの費用を計上するようになったことは事実で、東京都の公立幼稚園が年毎に増加し、その施設面も一園ごとに非常に整備されてきてうれしいことだ。

ながい間公立幼稚園でこうした活動に全身全霊を打ちこんできた私の、今の心境は実に複雑なものがある。私学に関係し、やがて私個人となる私は今後の幼稚園教育に、別な意味で、多くの不安な気持ちを持つだろうと今から心配だ。

地方によっては公私立幼稚園の反発は勿論のこと、私幼同志でも園児のうばい合いや、法人立個人立の反目対立など、一部の限られた人たちによることとはいいながら、これが私幼の発展にどんな影響を及ぼすことか、ほんとうになさけない現状だと思う。しかし全国にはこんな心配をよそに、県又は市町村教育助成金のおかげで公私立幼稚園の先生方がなごやかに、熱心に勉強し合い、親睦を楽しんでいる風景も見られるのに……時の流れとともに、想いもよらないいろいろなできごとにつづいたり、又その妙な幼稚園界のムードが保護者の「幼稚園観」にも影響して幼稚園教育の内容

にまでも何かの変化が表われていくのではないかと取越苦勞をすることも多いこの頃でもある。「よろこびも、苦しみも、又、むなしさも時とともに流れるもの」と一九六六年の幼児教育界を、私なりに今いろいろと想いをはせている新春である。

◆私の取越苦勞とは

○幼稚園増加によって起こる先生の不足、それを補うために無資格者や、間に合わせの先生の出現、おばさん先生、おねえさん先生などで幼稚園教育の内容がどんな風に変っていくだろうか。

○各都道府県に新設される短大保育科や養成所などのカリキュラムがどんな内容で進められていくのか？（先般文部省から示された幼稚園教育要領のうけとめ方でさえ、あまりにまちまちだったように思うので）

○折角養成された多くの先生方の待遇は？ 年毎に公務員給与ペーシングが上昇し、私幼でも年毎に新採用者の給与があがり、来年度は一万九千円〜二万円ときいて喜ぶ反面、十年以上も勤務する先生方の多い幼稚園はどうなるだろう？ 人件費に七割以上も費してしまふあとはどうなることだろう。結局は保育料や入園料施設費の増額となって公立幼稚園とのひらきはますます広がると……

○国庫補助金は学校法人の幼稚園だけに限られる。その学校法人立のなんと少ないことか。全国でわずか17%とか？ など、

以上のように幼稚園界には多くの難問題が山積していると思う。

折角盛りあがった振興計画が公立幼稚園のみでなく、幼稚園界全体に大きな恩恵をもたらすよう祈ってやまない。

◆故倉橋窓三先生の黒い背広姿

走馬燈のようにめぐる私の思い出の中に、昔のおしゃれだった倉橋先生の姿がありありと目に浮ぶ。いつも黒い背広に折目正しい綿ズボンの先生が、教室に入ってから入られるとまず私たちのようすをじつとながめられる。髪かたちから洋服まで、両手をうしろに組んでここにこながめ、なかなか講義は始まりそうもないと思っていると……もう、「こども心の講義」は始められている。私たちの髪かたちから、洋服の裏から……あわててノートをとったり、とれなかったりしたことを思い出し、改めて昨秋発行された倉橋窓三選集のひろいよみを始めた。

時の流れにしたがって幼稚園教育の姿は変わっていくかと思うが、あの「真諦」の中にある倉橋先生の精神だけはうけつがれて「正しくこども心をつかむ」ことだけはそのままうけつがれ続いていくと思う、嬉しいことだ。いろいろな先生方によってこどもの見方も違っていくのは当然と思うけれど、母親たちには「我が子の姿を正しく」みつめることを指導していきたい。これは私たち幼児教育者の責任だと思う。いままで、多方面の先生方が執筆された書物によって多くの母親たちは学びもしたけれど、又非常に「なやみ」をもった方たちも多いようだった。

・三才ではおそすぎると思う先生
・現代っ子はもやしのようだ、かたわの子どもが多い、といたいところを指摘した方

・小学校入学前にもっと知的生活をさせるべきだ、今のこどもは教えればどんな能力をだすと?……力説される先生
・幼稚園も教育の場である故、その評価も紙の上にはつきり表わすことができるかと力説される先生

幼稚園の先生方の中にも、こうした説によってすべてを解決しようとする園長先生や母親たちの質問せめにあったり、いろいろと難問題をだされて泣きつかれた若い先生方に、今後どんな指導をしたものか? なやみ多い年になりそうだ。

◆めぐる想いととも希うこと

世の中にあふれるいろいろな読ものによって受け取り方の違う母親たちや若い先生方に「こどもの姿を正しくみつめる」ことの指導について幼児教育者みんなが責任をもたねばならない時と思う。と同時に「幼児の指導」については、あくまでも日常生活の中で、こどもの生活と離れぬようにということを再度認識し、母親にも幼稚園の先生方にもつきり示せるように心がけねばならないと思う。そして学校生活と幼稚園生活との違いがどこにあるかを具体的に、はつきり示せるように、今こそ私たちのように幼児教育の年長者が手を取りあって、共に責任をもち合いたいものである。